

は し が き

言語センター長 大 島 稔

言語センター広報 *Language Studies* の第 16 号をお届けします。言語センター長が 2007 年 10 月 1 日付けで、個別言語部門英語系の大島稔教授に代わりました。副センター長に個別言語部門ドイツ語系副島美由紀教授が就任しました。前センター長の君羅久則先生は、2001 年 10 月より、6 年間、センター長職を務め、マルチメディア LL 教室の完成や e-Learning システムの導入などにリーダーシップをとっていただき感謝しております。ご苦労さまでした。

マルチメディア LL 教室は、完成してから、今年で 3 年目になりますが、語学の授業ではもちろん、他の授業でも利用されるようになりました。また、2006 年 1 月に本学教育開発センターの協力により導入された英語の e-Learning システムも昨年バージョンアップされ、授業の中で、あるいは授業外の自習教材としても利用できる内容となりました。この e-Learning システムは TOIEC タイプの問題を繰り返し解きながら点数を高めていく方式で、英語科では、さらに利用を拡大する方策を検討しています。また、英語以外の外国語についても e-Learning システムの構築の必要性は以前から認識されているものの、適当な学習ソフトが少なく、実施に至っていないのが残念です。

e-Learning システムは、言語学習に必要な自主的復習練習はもちろん、マルチメディアを利用したコミュニケーション重視の教授法の開発などにおいて重要なツールとなると予想されるので、言語センター全体として、e-Learning を活用した授業の展開と施設・ソフトの充実をめざして行きたいと考えています。

マルチメディア LL 教室と e-Learning の利便性と有効性が認識されるにつれて、昨年に引き続き、施設の不足が顕著になってきています。マルチメディア LL 教室への利用希望が多く、授業時間が重なる場合も多いので、利用したくてもできないという事例が増えていおり、この問題の解決は、時間割の改善では、解決が難しく、マルチメディア LL 教室の増設が急務な状況と思われま

す。ネイティブ・スピーカーによる集中外国語会話公開講座は、今年度、韓国語を含めて 3 講座が開講されました。春から夏にかけて、ダニエラ・カルヤヌ准教授による英会話講座、本学非常勤講師であるアレクサンドル・スペヴァコフスキー氏によるロシア語会話講座、非常勤講師宣憲洋氏による韓国語会話講座が実施されました。この公開講座は、言語センターが平成 5 年度から毎年開講しており、韓国語を除いて受講者は、必ずしも多くはあいませんが、全講座とも熱心なリピーターもおり、受講された方々にはたいへん好評でした。

平成 16 年度から実施してきた、小樽まち育て運営協議会主催の OJT リーダー養成のための語学研修の英語、中国語、韓国語外国語会話集の補遺編が作成されました。

本学の教員と、高校や中学で教員となっている本学卒業生とでつくる教職研究会の第 20 回大会が平成 19 年 12 月 8 日に言語センター・マルチメディアホールとマルチメディア LL を会場として開催されました。今年度は、セミナーで本学言語センター大島稔教授が「e-Learning 教材の作成」の発表を行いました。本学卒業生を中心に、本学教員、学生、大学院生なども含めて 40 数名の参

加がありました。

さて言語センター所属の教員の海外出張と研修についてご報告します。

個別言語部門フランス語系の江口修教授は、ル・コルビジユエ財団訪問インタビューおよびベルナール・パリシーに関する資料調査および収集のため平成19年4月22日～4月27日の間、さらにオセアニア地区交流協定締結校の訪問と交流のあり方に関する協議のため、ニュージーランドのオタゴ大学およびオーストラリアのウーロンゴン大学に平成19年11月19日～11月23日出張されました。個別言語部門日本語系高野寿子教授は、19th European Summer School in Logic, Language and Information および New Direction in Typetheoretical Grammas 大会出席のため、ダブリンのトリニティー大学に平成19年8月5日～8月18日出張されました。個別言語部門ロシア語系の山田久就准教授は、科学研究費補助金によりロシア国立図書館等に平成19年8月29日～9月30日出張されました。個別言語部門中国語系裴崢教授は、外国語教授法に関する調査・資料収集のため、揚州大学に平成19年8月5日～22日と平成19年12月22日～平成20年1月14日、ワシントン大学およびサンフランシスコ大学に平成19年8月31日～9月19日出張されました。個別言語部門英語系吉田直希准教授は、科学研究費補助金によりアメリカ18世紀学会年次大会打ち合わせおよび18世紀英文学研究に関する資料収集のため、スタンフォード大学へ平成19年9月19日～9月29日、アメリカ18世紀学会年次大会打ち合わせおよび研究成果報告書作成に関する資料集のため、南カリフォルニア大学ポモナ校へ平成20年2月10日～2月21日出張されました。個別言語部門英語系羽村貴史准教授は、アメリカ文学研究に関する資料収集のため、マサチューセッツ大学アマースト校へ平成19年9月10日～9月19日出張されました。個別言語部門英語系の高井收教授は、資料収集のためオレゴン州ポートランド州立大学に平成19年12月22日～平成20年1月9日出張されました。

平成19年3月から1年間、ケンブリッジ大学で本学派遣の在外研究員として出張されていた個別言語部門英語系杉村泰教教授が平成20年3月に帰国します。